

目次

- 02 研究会 1. 大岩美恵子（総合病院聖隷三方原病院図書室）
病院図書室担当になってから今日までの取り組み：
Serials Solutions 360 Link 導入を中心に
- 03 研究会 2. 大野圭子，村瀬由紀子（朝日大学図書館）
朝日大学図書館におけるリンクリゾルバ「SFX」の導入について
- 04 研究会 3. 寺升夕希（滋賀医科大学附属図書館）
参加しやすい講習会を目指して：“ぶち講習会”での実践
- 05 研究会 4. 田原美奈子（名古屋市立大学総合情報センター川澄分館）
図書館主催講座「総合情報センター知っ得講座」の取り組み
- 06 研究会 5. 細矢敬子（東京慈恵会医科大学学術情報センター）
医学生に対する情報検索演習と図書館員の役割：東京慈恵会医科大学の事例
- 07 研究会 6. 野田久愛（東京女子医科大学図書館）
図書館ウェブサイトの構築：利用者の視点から
- 08 研究会 7. 作野誠，宮城泰子（愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター）
歯学・薬学部新生の入学前 1 年間の図書館利用頻度の紹介：
効果的な図書館ガイダンス実施方法の検討資料として
- 09 研究会 8. 酒井由紀子（慶應義塾大学信濃町メディアセンター）
LibQUAL+®（ライブカル）による図書館サービス品質評価：
慶應義塾大学信濃町メディアセンターにおける実践
- 10 研究会 9. 小嶋智美（愛知淑徳大学図書館）
MeSH を活用したパスファインダー更新作業
- 11 研究会 10. 市川美智子，榊原佐知子，浅井伸夫（愛知医科大学医学情報センター）
地域連携パスファインダー作成に向けたテーマ選定方針の一考察
- 12 研究会 11. 折井匡（信州大学附属図書館）
信州大学附属病院に新設された患者図書室「こまくさ図書室」について
- 13 研究会 12. 堤亮平，佐山暁子，山口直比古（東邦大学医学メディアセンター），
高下梓，黒岩誠（明星大学人文学部）
地域の医療に携わる医師の医学・医療情報に対する需要調査
- 14 継続教育 1-1 講師：山崎茂明氏（愛知淑徳大学文学部図書館情報学科教授）
演題：医学図書館員のための論文執筆と学会発表：問題発見から解決へむけて
- 15 継続教育 1-2 講師：原田信広氏（藤田保健衛生大学医学部医学科生化学教授
図書館長）
演題：論文はどのような過程を経て外国雑誌に掲載されるのか：
論文作成と図書館との関係
- 16 継続教育 2 講師：田原美奈子氏（名古屋市立大学総合情報センター川澄分館）
山崎むつみ氏（静岡県立静岡がんセンター医学図書館）
演題：文献検索講習 中級編 ～こわくないシソーラス～

研究会 1

病院図書室担当になってから今日までの取り組み:

Serials Solutions 360 Link 導入を中心に

大岩美恵子

総合病院聖隷三方原病院図書室

1. 導入の背景

インターネットの普及とともに学术论文の電子化が急速に進んだことを背景に、当室の電子ジャーナルのタイトル数も増加してきた。従来のエクセルシートによる雑誌管理方法では、登録やメンテナンスに多大な時間と労力がかかり、登録情報の信頼性を保持することが一人職場の病院図書室では難しくなってきた。今後も電子版の契約タイトルが増えることが予想され、Serials Solutions のサービスの一つである 360 Core、リンクリゾルバ機能を持つ 360 Link を順次導入することになった。

2. 導入プロセス

(1) 360 Core

2007 年度にトライアルを開始し、翌年 1 月から導入。導入作業として、タイトルリスト、ID / PW 情報の内容確認を行い、ポータル画面のカスタマイズを行った。タイトルリストは、自作した図書室ホームページに埋め込み、提供した。

(2) 360 Link

2009 年 1 月から導入。360 Core の利便性は理解されたが、利用者からは二次データベースからシームレスに論文を入手したいとの要望が多く寄せられた。図書費の 60% を雑誌が占める現状から考えると、リンクリゾルバ機能を追加すれば、利用者の利便性が図られるとともに当室資料の有効活用も期待出来るとして導入を決定した。

3. 導入してからの当室の変化

360 Core、360 Link 導入当初は利用者への周知に時間が費やされたが、認知されてくると中間窓でのナビゲートによって利用者の資料へのアクセスがスムーズとなり、資料探しの時間が短縮されたほか、ILL フォームの自動入力機能の利用によって、利用者側に新たな検索意欲が生まれるようになった。また、図書室ホームページの認知度もアップした。

一方図書室担当者サイドの変化として、メンテナンス作業の軽減、ILL フォームの自動入力機能による文献複写作業の効率化、利用統計機能の活用による利用者動向の把握など様々な効果が得られた。

4. おわりに

導入さなかに図書室移転と重なり、サービスの情報整備が進まない時期もあったが、これらのサービス導入によって、図書室の存在を利用者に身近に感じてもらえる一つの転機となった。今後も書誌情報整備の継続とオリエンテーション等での根気強い広報によって周知を図りながら、利用者にとって図書館が魅力的な起点¹⁾ となれるよう努めていきたい。

参考文献

1) Serials Solutions 社ホームページ [internet] .

<http://www.serialssolutions.com/japanese/> [accessed 2009.09.14]

研究会 2

朝日大学図書館におけるリンクリゾルバ「SFX」の導入について

大野 圭子，村瀬由紀子

朝日大学図書館

1．はじめに

朝日大学図書館では，2009 年 9 月から SFX (EX Libris 社，代理店：ユサコ株式会社) を導入した。本研究会では，導入に至った経緯と，稼働後の文献入手までの状況の変化等について，図書館員および利用者の視点から報告したい。

2．導入の経緯

導入を検討したきっかけは，PubMed の検索結果から，利用者が必要とする文献へ効率よく且つ適切にナビゲートしたいということであった。

今回の導入にあたり，SFX，SwetsWise LINKER (Swets 社)，Serials Solutions (ProQuest 社，代理店：サンメディア) の 3 製品について検討した。その後，SFX と SwetsWise LINKER のデモンストレーションを実施し画面等の確認を行った。それぞれの製品の長所や短所，価格などを総合的に検討した結果，当館では SFX の導入を決定した。

3．稼働までの作業

- ・選定
- ・発注
- ・設定準備
- ・各種申請・登録作業
- ・SFX ソースの設定
- ・SFX サービス開始

4．稼働後の状況

現在，雑誌は冊子体や電子ジャーナルなどの異なる媒体で提供され，特に電子ジャーナルの発信形態 (オープンアクセス・機関リポジトリ・アグリゲータ・出版社・個々で契約しているタイトル等) は多様化し，文献が散在している。

リンクリゾルバの導入により，これらの資料が一元管理され，利用者に効率よく且つ適切に提供できるようになった。図書館員側および利用者側のそれぞれの立場から，具体的な状況の変化やメリットなどを紹介する。

研究会 3

参加しやすい講習会を目指して：“ぷち講習会”での実践

寺升 夕希

滋賀医科大学附属図書館

1.はじめに

滋賀医科大学附属図書館（以下、当館）では、2008 年 1 月から「ぷち講習会」と題して PubMed・医中誌 Web 等のデータベース検索講習会を実施している。新たな試みとして始めたこの講習会について報告する。

2.実施に至る経緯

従来、当館ではデータベース検索講習として、詳細なマニュアルを用いた長時間の実習形式の講習会を不定期に実施してきた。しかしながら、日々、カウンターで受ける利用者からの質問は、そのほとんどがデータベース検索や文献の入手方法についてである。このような状況から、さらに多くの利用者が講習を受講する機会を設けることが必要と思われた。

そこで、開催日時や時間を限定した長時間の講習会に参加しにくい教職員・学生をターゲットとした「参加しやすい」講習会を企画、実施した。

3.講習会内容の実際

「ぷち講習会」のコンセプトは「参加しやすさ」である。利用者が気軽に参加できるよう開催日程（毎週火曜・金曜それぞれ 1 日 2 回）・所要時間（約 15 分）・内容を検討した。データベース検索の基本だけでなく、電子ジャーナルへのリンク機能の紹介や文献の入手方法など、利用者が文献にたどり着くまでを簡単に説明している。

また、情報サービス係の職員 3 名が輪番で対応し、参加者 1 名から開催することとした。

4.受講者の評価

「ぷち講習会」受講者には任意でアンケートを実施している。ほとんどの場合、利用者と当館職員の 1 対 1 で行うため要望に沿った内容に合わせることができ、概ね好評を得ている。

5.今後に向けての課題

これまでの「ぷち講習会」は入門編とも呼べる内容で行ってきた。今後は利用者からの要望を踏まえ、各データベースの応用編への対応や新たなデータベースを対象とすることも必要である。加えて、受講者の増加を目指し、学内への広報・周知についても考えていきたい。

研究会 4

図書館主催講座「総合情報センター知っ得講座」の取り組み

田原美奈子

名古屋市立大学総合情報センター川澄分館

1. はじめに

名古屋市立大学総合情報センター川澄分館（以下、当館）では、教員の依頼により授業の一環で文献検索講習を行っていたが、さらなる情報リテラシーの充実のために2006年度より「総合情報センター知っ得講座」と題して図書館主催の講座を提供し始めた。2006・2007年度は学生・教職員を対象としたが2008年度はさらに対象をひろげ、5つの講座を対象別に実施した。その内容と今後の展望・課題について報告する。

2. 2008年度実施講座

「図書館司書と一緒に看護研究をやってみませんか？」（対象：看護師）

内容：看護研究（グループ研究）のための文献検索支援。

「CINAHL 利用講習会」（対象：看護学部教員・院生）

外部講師を依頼（EBSCO 社）。

「知っておきたい！文献検索」（対象：学生）

内容：文献検索講習全般。授業での文献検索のフォロー。

「知って得する“文献集め”」（対象：医局秘書）

内容：所蔵資料・電子ジャーナルの確認方法，参考文献の見方等の解説。

「医学図書館探検隊」（対象：一般）

内容：医学図書館の紹介，医学情報の探し方，館内見学（当館・本学病院患者情報ライブラリー）

【形式】

のみ外部講師による講義形式で実施。 以外は図書館職員が実施し，利用者と一緒に演習を行う利用者参加型の形式。特に ， は利用者に知りたいテーマ等を持って来てもらい，質問を受けながら行う利用者主体の講座を行った。

【開催日時】

・ は当館で日時を設定したが， ， は利用者の希望日時を聞き，調整して行った。

3. 今後の課題

主にポスター掲示・チラシ配布で広報を行ったが，ポスター掲示のみの講座は参加率が低く，特に学生向けの講座では広報の充実が課題となった。内容についても，文献検索に関する講座に偏りがちになるため，毎年実施していくうえでは視点を変えた目新しい内容の講座も検討していく必要がある。

利用者の動向・ニーズの把握に努め，より利用者に満足される講座を目指していきたい。

研究会 5

医学生に対する情報検索演習と図書館員の役割：東京慈恵会医科大学の事例

細矢 敬子

東京慈恵会医科大学学術情報センター

1. はじめに

東京慈恵会医科大学学術情報センター（以下、当センター）では医学科 1 年生から 4 年生の各学年（1 学年約 100 人）において情報検索演習を担当している。この演習は正規カリキュラム（必修）の一部であり、いわゆる図書館の使い方といった利用ガイダンスや自由参加の講習会とは異なる。そのため、各学年の段階に応じて目的を設定している。この演習の事例を報告するとともに今後のあり方を展望する。

2. 各学年の演習目的と主な内容

1 年生ではネットワーク上の情報の性格を理解し正しく使いこなすこと、図書館（国領分館）の利用法を学ぶことを目的とする。情報源の特徴と探し方、インターネット上の情報の評価方法（利用上の注意）などに触れる。図書館で行うグループ単位の演習では今後の図書館利用がスムーズに行くよう OPAC や参考図書を使用する課題を出している。

2 年生ではキャンパスが新橋に変わるため西新橋図書館の利用法と情報検索の基本を学ぶことを目的とする。図書館内でのグループ演習では、利用法の説明に加えて雑誌を含めた多様な情報源から適切な情報を選び出し調べることを体験させる。

3 年生では学術情報の発生と流れの中で雑誌および文献データベースの性格を理解し、基本的な検索方法を習得することを目的とする。医学系の代表的なデータベースである PubMed と医中誌 Web を使用した 90 分の演習である。キーワードの選定、検索式の組み立て、検索結果から適切な文献を選ぶことに重点を置いた内容である。理解度を確認するために宿題を出し個別にコメントを返信する。さらに試験を実施している。

4 年生では Evidence-based Clinical Practice 演習のステップ にあたる情報検索を担当する。1 学年を 2 組に分け学生約 50 人に対し PubMed、医中誌 Web、The Cochrane Library、Up To Date を使用した 180 分の演習を実施する。エビデンスレベルの高い（根拠が得られる）論文を検索することを意識した検索方針の立て方、PECO (PICO) に基づくキーワードの選択に重点を置いた演習である。

3. 今後の展望

現在は 4 学年に実施している検索演習であるが、当センターの最初の教育活動は昭和 63 年、医学科 3 年生の生理学の授業で行った Index Medicus を使用した演習であった。その後、大学からの依頼により対象学年が増え検索ツールも変化する中、その時々担当者が演習内容を見直し継続してきた。今後も情報検索に関する最新の知識と技術を学生が習得できるようカリキュラムの中で役割を果たしていきたい。

研究会 6

図書館ウェブサイトの構築：利用者の視点から

野田 久愛¹⁾

東京女子医科大学図書館

[はじめに]

電子ジャーナルや文献検索データベースなどのオンライン資源の拡大を背景として、図書館ウェブサイトは様々な学術情報への入口として、さらに重要な役割を担っている。当館の学外向けサイトは、主に学外利用可能なサービスと利用案内を公開しており、大学全体のウェブサイト構築を担当する業者が作成している。一方、学内向け・館内専用サイトの構築およびウェブサーバの管理は、館内のネットワーク担当者が担当している。このように館員自らがウェブサイトの管理をする利点は、情報の更新が迅速にできること、また利用者の要望を取り込みやすいという点である。今回は当館のウェブサイトを例に、利用者にとってのユーザビリティ向上を目指したウェブサイト構築の試みとオンラインサービスの今後について、報告する。

[事例報告]

2008 年 12 月、当館の学内向けウェブサイトのトップページをリニューアルした。旧トップページは増え続けるオンラインサービスのリンクの追加で、画面を大きくスクロールする必要が出てきたり、階層構造が深くなってきたなど、いくつかの問題点があった。さらに機関リポジトリというコンテンツの追加を機に、全体的なレイアウトの見直しをすることになった。

リニューアルにあたって重視したポイントは、館員を含めたユーザにとっての使いやすさの向上と、ウェブサイト管理者にとっての編集作業の簡易さである。リニューアル案の作成時には、これまでの具体的な問題点を改善すると同時に、各種ウェブページのガイドラインを参考にし、ユーザビリティの条件をできる限り満たすように設計した。それに加え背景色は大学のイメージカラーを用い、これまでと同様親しみをもってもらえるように意識した。トップページの最終案ができるまでは、担当者以外の館員からも意見を聴取して、より使いやすいページとなるよう検討を重ねた。

[今後]

ウェブ構築の技術力を高める一方、館員としての立場から利用者の要望を直接聞き、レイアウトを工夫したりヘルプページを作成するなど、使い勝手の良いウェブサイト構築に活かしている。しかし個々の対応に終始するのではなく、それらを利用者全体の満足度につなげてゆくには、それぞれの要望を分析しより全体的な視点を取り入れながら、ウェブサイトに反映してゆく必要がある。また図書館は大学において、学術情報流通の中心としての役割が期待される。利用者の求める情報をいかに的確に提供し、同時に図書館として発信すべき情報をいかに効果的に伝えるか、その工夫が今後も課題である。

¹⁾ヘルスサイエンス情報専門員 基礎

研究会 7

歯学・薬学部新入生の入学前 1 年間の図書館利用頻度の紹介：

効果的な図書館ガイダンス実施方法の検討資料として

作野 誠¹⁾，宮城 泰子

愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター

1．発表の趣旨

愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター（以下「当センター」）では、年度始めのオリエンテーション時に実施する学生に対する図書館ガイダンスを委託スタッフと専任職員が連携・協力して行う業務のひとつとして位置付けている。これは、利用者に図書館のサービス内容と効果的な利用方法を説明することは、委託スタッフと専任職員が雇用形態の違いを超えて、共通の知識とスキルを必要とする業務のひとつであるという認識からである。その際に、毎年担当する学年を変える等の工夫をし、ガイダンスの準備が担当する学年の教育課程の理解に役立ように配慮しているつもりである。次年度のガイダンスと提供するサービスの改善に役立てるために、事後アンケートを実施しているが、新入生に対しては、入学前 1 年間の図書館利用頻度（出身高校とそれ以外）を調査している。平成 19 年度の調査結果の一部は平成 19 年度私大図協西地区部会東海地区協議会研究集会で紹介した。²⁾

今回は、平成 21 年度の調査結果を紹介し、効果的な図書館ガイダンス実施方法とそれを踏まえての図書館サービス提供者の役割・重要性について検討したい。

2．平成 21 年度調査結果の概要

平成 21 年 3 月 高校卒新入生の入学前 1 年間の図書館利用頻度

			利用しなかった	ほとんど毎日	週 2～3 回	週 1 回程度	月 2～3 回	月 1 回程度	合計
歯学部	出身高	名	27	5	6	1	2	14	55
		%	49.1	9.1	10.9	1.8	3.6	25.5	100.0
	以外	名	35	1	4	3	2	10	55
		%	63.6	1.8	7.3	5.5	3.6	18.2	100.0
薬学部	出身高	名	67	13	12	8	14	13	127
		%	52.8	10.2	9.4	6.3	11.0	10.2	100.0
	以外	名	66	2	11	6	9	33	127
		%	52.0	1.6	8.7	4.7	7.1	26.0	100.0

平成 21 年 3 月 以外高校卒新入生の入学前 1 年間の図書館利用頻度

			利用しなかった	ほとんど毎日	週 2～3 回	週 1 回程度	月 2～3 回	月 1 回程度	合計
歯学部	出身高	名	15	0	2	1	4	6	28
		%	53.6	0.0	7.1	3.6	14.3	21.4	100.0
	以外	名	11	1	2	1	6	7	28
		%	39.3	3.6	7.1	3.6	21.4	25.0	100.0
薬学部	出身高	名	11	0	2	1	0	2	16
		%	68.8	0.0	12.5	6.3	0.0	12.5	100.0
	以外	名	8	0	1	2	4	2	17
		%	47.1	0.0	5.9	11.8	23.5	11.8	100.0

3．おわりに

定年目前だが、図書館サービス提供者としての経験はそんなに長くない。当センターにおいては図書館サービス提供者の役割・重要性が十分に理解されているとはいえない。図書館サービス提供者として、十分な役割を果たすことができていないのは残念である。この発表を同じような経験をする図書館職員が少しでも少なくなる環境を造る一助としたい。

¹⁾ヘルスサイエンス情報専門員 中級

²⁾作野誠・専任職員と委託スタッフの連携による効果的なサービスの提供 - 愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センターにおけるガイダンス実施の事例 - ．館灯．46，2008，47-52．この時点では専任職員と委託スタッフの連携による問題点が明確になっていない。

研究会 8

LibQUAL+® (ライプカル) による図書館サービス品質評価:

慶應義塾大学信濃町メディアセンターにおける実践

酒井由紀子¹⁾

慶應義塾大学信濃町メディアセンター

1. LibQUAL+®実施の背景と目的

慶應義塾大学では「メディアセンター中期計画 2006-2010」の行動計画に沿い、利用者調査ワーキンググループ (<http://project.lib.keio.ac.jp/assess-wg/>) による調査を実施している。その目的は、利用者ニーズの把握と、次期中期計画を策定する材料を得ることにある。2008 年 10 月 6 日から 11 月 1 日には図書館サービス品質調査 LibQUAL+®を実施した。LibQUAL+®の結果からは、主に後者の中長期的な課題を見極めることが期待された。

2. LibQUAL+®の実施

LibQUAL+®は北米で開発された Web 版利用者調査による図書館サービス評価ツールである。慶應義塾大学が提供元の北米研究図書館協会と日本語版を共同開発し、2008 年から日本でも実施が可能となった。慶應義塾大学における調査対象は、6 つのキャンパスにある 8 つのメディアセンターまたは図書館の利用者である。以下では信濃町メディアセンターを「よく使う図書館」とした利用者 482 名の回答について結果と考察を述べる。2002 年に実施された北米の医学図書館コンソーシアム 35 館の結果との比較についても触れる。

3. 結果と考察

LibQUAL+®の中心は スタッフ、資料と組織、場としての図書館という三側面から成る 22 問のコア設問である。各設問に対し、回答者は(1)最低限のレベル、(2)望ましいレベル、(3)実際のレベルを 9 点満点で回答する。(1)と(2)の間を許容範囲と呼び、(3)の実際のレベルと比較するギャップ分析という手法で相対的評価を得るものである。

信濃町メディアセンターの結果を分析すると、の場所にはレッドカードが呈されたといつて良い。特に「グループ学習や共同研究のためのスペース」と「ひとりで学習・研究するための静かな空間」という設問に対し、実際のレベルが最低限のレベルを下回っていた。

の資料については、望ましいレベルの平均スコアが他の二側面より高く、最も期待が大きいことがわかった。問題となるのは、教職員の回答で、リモートアクセスに関する設問が最低のレベルを下回っていたことである。のサービスについては、期待は低い、概ね満足の結果を得ている。

北米の医科大学コンソーシアムの結果との比較では、北米の方が利用者の期待が高く、許容範囲は極めて狭く厳しい評価を得ているが、満足度は高いことがわかった。

4. 結論

信濃町メディアセンターでは、場所と資料およびアクセスに特に課題がある。今後はこの調査結果を経営の指標として活用できるような形で提示していきたい。また、ピアとなる図書館と LibQUAL+®実施の経験を共有し、アセスメントの文化づくりに貢献したい。

¹⁾ヘルスサイエンス情報専門員 上級

研究会 9

MeSH を活用したパスファインダー更新作業

小嶋 智美¹⁾

愛知淑徳大学図書館

背景：愛知淑徳大学図書館では、『レファレンスサービスのための主題・主題分析・統制語彙』を出版し、執筆内容を反映した実務のひとつとして、過去に作成したパスファインダーの更新作業を行っている。パスファインダーの更新においても主題分析の視点は重要であり、作業に欠かすことができないのが統制語彙集 (CVs) である。CVs は、「ニーズの分析」「主題の理解」「主題の側面についての理解」「パスファインダーの構成と検索語の収集」「掲載する情報資源の分析」に役立つ上、担当者の主題知識を補うことができる。医療・健康分野のパスファインダー作成には、同分野の代表的な CVs である『Medical Subject Headings (MeSH)』を用いている。本報告では、医療・健康分野パスファインダーの更新作業における MeSH の活用事例を取り上げた。

報告：更新対象は『構音障害』のパスファインダー、作業工程は「シラバス分析」(再検証)とした。シラバス分析の着眼点は、「1. 履修対象」「2. 授業の概要・授業の目標・テキスト・参考文献」「3. 授業計画」の 3 つである。履修対象の分析結果は「パスファインダー利用者の主題」に、授業目的・テキストおよび参考文献の分析結果は「パスファインダー全体の主題」に、授業計画の分析結果は「パスファインダーの構成要素や掲載する各情報資源・検索の主題」にほぼ重なる。授業計画の分析結果を元に、各単元レベルでパスファインダーを作成することも可能である。シラバスの記述を着眼点ごとに「主題」「主題の側面」を意識しながらチェックする。キーワード候補が抽出できたら『MeSH Browser』で該当する各ディスクリプタを探し、「Scope Note (スコープノート)」「Entry Term (参照語)」「Allowable Qualifiers (許容可能な限定子)」等すべての記述項目および「MeSH Tree Structures (ツリー構造)」を確認する。

結果：スコープノートは定義や範囲の確認に、限定子は主題の側面の理解に、上位語やツリー構造は概念の位置づけ(カテゴリや包摂関係)の把握に、参照語や前索引語は関連キーワードの収集に活用できることを再認識した。シラバス分析の結果は、次段階の「トピックについての理解の再検証」から「構成見直し・検索語の再収集」「掲載済の情報資源や検索案内の検証」まで引き継がれ、更新前のパスファインダーの不足・問題点を明らかにすることができる。

考察：本報告は、「一定のルールの上に主題分析を行い、分析結果を共有するツールとして CVs が有効であること」を検証したものである。今後の課題として、CVs を利用するための環境整備や担当者の養成等が挙げられる。

¹⁾ヘルスサイエンス情報専門員 基礎

鹿島みづき著．愛知淑徳大学図書館編．レファレンスサービスのための主題・主題分析・統制語彙．東京：勉誠出版；2009

研究会 10

地域連携パスファインダー作成に向けたテーマ選定方針の一考察

市川美智子¹⁾，榊原佐知子，浅井 伸夫

愛知医科大学医学情報センター（図書館）

1. 現状と目的

当館と近隣公共図書館は2007年より連携事業に取り組んでいる。事業の要として地域連携パスファインダー（愛称：メディカルパス）を作成しており，2009年9月現在「頭痛」「糖尿病」「緑内障」を始め9テーマを提供している。パスファインダーは利用者を情報源に導くツールとして注目されるようになってきた。しかしながら肝心の利用者からの反響は少ない。広報不足も原因の一つと思われるが，テーマ自体（切り口）に魅力が不足している恐れもある。そこで，統計や文献から利用者の周辺状況を整理し，今後のテーマ選定方針の参考とする。

2. 方法

連携図書館の貸出及びレファレンス記録，厚生労働省の患者調査，厚生労働白書，健康雑誌出版社の動向，文献，本学病院の受療統計等から興味深い情報を抽出する。

3. 結果

受療行動調査では，日常の事柄（薬や生活習慣指導）を中心に説明を理解できなかった率が増加傾向にある（表1）。健康情報誌では悪性新生物，循環器系，内分泌系に関して特集が繰り返し取り組まれており，総患者数^{*1)}と傾向が一致する（表2）。他に，健康情報誌と公共図書館貸出率の高い筋骨格系は，推計患者数^{*2)}が多い。国や地方自治体は予防（健康増進）に主眼を置いており，連携館でもその類の蔵書は充実していて利用度も高い。健康増進や患者数の多い疾患に関する基本情報は豊富に提供されている。という傾向が把握できた。^{*1)} 継続受療中の人数 ^{*2)} 調査特定日に通院・入院していた人数

【表1】

医師などから受けた説明の理解度

(あまりわからなかった+まったくわからなかった)

入院+外来	17年度	20年度
病名・症状	4.6	4.8
治療の方法・期間	10.0	10.5
病気について今後の見通し	17.0	17.9
薬の効能・副作用	14.6	17.3
栄養・運動等の生活習慣上の指導	11.5	15.1

受療行動調査

【表2】

順位	疾患名	総患者数 (千人)	健康雑誌 特集数	備考
1	★高血圧性疾患	7,809	15%	4 5% 健康日本21
2	★歯肉炎・歯周疾患・支持組織の障害	5,664	11%	3 3% 健康日本21
3	★糖尿病	2,469	5%	5 6% 健康日本21
4	★高脂血症・狭心症	2,178	4%	7 8% 健康日本21
5	★悪性新生物	1,423	3%	18 21% 健康日本21
6	★脳血管障害	1,345	3%	4 5% 健康日本21
7	白内障	1,288	3%	6 7%
8	胃炎・十二指腸炎・胃潰瘍	1,248	2%	1 1%
9	脊椎障害（頸椎症・腰痛を含む）	1,163	2%	11 13% 貸出上位
10	★喘息	1,092	2%	2 2%
11	★関節症	993	2%	4 5%
12	★気分障害・躁うつ病	924	2%	3 3%
13	★統合失調症及び妄想性障害	757	1%	2 2%
14	神経症性障害	585	1%	0 0%
15	緑内障	544	1%	6 7%
16	アトピー性皮膚炎以外の皮膚炎及び湿疹	536	1%	3 3%
17	前立腺肥大（症）	459	1%	3 3%
18	★骨粗しょう症	451	1%	2 2%
19	★アレルギー性鼻炎	446	1%	1 1%
20	その他の眼及び付属器の疾患	430	1%	1 1%

H17年度患者調査を改編 患者総数は51,974千人

★印は厚生労働白書で取り上げられている疾患

4. 考察

患者数の多い疾患・症状+具体的事項（例：うつ病治療と薬）という視点でテーマを選定することが図書館機能の発揮に繋がり，利用者の信頼を獲得する上で効果的であろう。

¹⁾ヘルスサイエンス情報専門員 上級

研究会 11

信州大学附属病院に新設された患者図書室「こまくさ図書室」について

折井 匡¹⁾

信州大学附属図書館

1. 概要

信州大学附属病院では、2009 年 5 月 7 日の新診療棟の開設時に、患者図書室「こまくさ図書室」を新設した。国立大学病院の中にありながら、松本市立図書館の分館機能を持っている、大変ユニークな図書室である。

外来棟と病棟の人通りの多い通路脇にあり、室内は約 50 平米。大学病院で用意した医学医療関係図書が 600 冊（目標は 1000 冊）、市立図書館よりの長期借用一般図書が 3000 冊。AV 関係資料が 50 点。PC が 4 台（インターネット接続可能）、DVDplayer1 台、テレビデオ 1 台。

開設当時利用者は 1 日 40 人、平均貸出数は 45 冊（月換算で 1000 冊）であったが、その後の経過は当日説明したい。

司書は 2 名で資格を有している。午前と午後の 4 時間交代で行い、常時 1 名が勤務している。司書の経費は、市と折半している。

2. 設立経緯

医学部図書館の分室として設置ができるか？ 先進病院図書室の見学、病院図書室の利用者のニーズ、ボランティアでの運営は？ 市立図書館の団体貸出制度、図書室での貸出方法の検討などの経過の後、松本市立図書館の分館機能を病院図書室に持たせたらどうかとの話になり、病院長が市長に陳情した。（市長は信州大学医学部 OB）病院図書室の愛称を募集し「こまくさ図書室」（こまくさ：高山植物の女王）と決定した。その後市との協定を締結し、5 月 7 日に開室した。

3. 相談

図書室内で受けることができない相談については、医療福祉支援センターの相談窓口を紹介する。専門的な図書や各種複写サービスなどは医学部図書館を紹介する。

4. 医学部図書館の役割

患者図書室からの紹介者へ専門書を提供する。各種検索システムの提供。複写サービスを行う。他の信州大学図書館等を紹介する。

病院図書室で購入する図書の選定補助。病院図書室の図書を購入し装備する。

5. 現在の問題点と今後の課題

問題点としては、司書の残業などに市との協議が必要、図書室内の PC が学内ネットワークに安全管理上接続できず各種検索ができない、図書の寄贈と受入、などがある。

今後は、病棟内へのワゴンサービス、定期的な団体貸出図書(3000 冊)の入替、積極的な医療情報の発信などを行いたい。

¹⁾ヘルスサイエンス情報専門員 上級

研究会 12

地域の医療に携わる医師の医学・医療情報に対する需要調査

堤 亮平, 佐山 暁子, 山口直比古

東邦大学医学メディアセンター

高下 梓, 黒岩 誠

明星大学人文学部

【研究の背景】

現在, 大学では国公立・私立を問わず, 地域に貢献する姿勢が求められている。東邦大学(以下本学)医学メディアセンターでも, 地域貢献の一環として医療関係者や地域の医師会会員に対して利用の門戸を開放している。しかしながら, 現状では決して利用頻度が高くないのが実情であり, この点に関して, 今一度検討する必要性が出てきている。

【研究目的】

地域の医師に対するより効果的な情報提供を考える前提として, 近隣の医療機関や地域の医師会会員の情報需要を把握する事を本研究の目的とする。

【研究方法】

医師に対する情報需要調査に関しては, 過去には, 1999 年の阿部らによる全国の臨床医を対象とした調査, 2004 年の浅沼による研究がある。これらの研究ではアンケート調査票を用いているが, 本研究でも先行研究に倣ってアンケート調査票を配布する方法を用いた。なお, 本研究で用いるアンケート調査票では, 1999 年の阿部らによる調査項目をベースにして, インターネット環境が普及した現在に合わせて選択肢を増減した。

【調査手法】

本調査では, 本学の所在地である大田区内の医師会である, 蒲田医師会・大森医師会・田園調布医師会に所属する医師全員にアンケート調査表を郵送で配布, 回収した。なお, 今回の発表では現在までに許可がおりた蒲田・大森医師会の医師を対象とした。

【結果と考察】

アンケート調査票送付数は, 蒲田医師会が 295 通・大森医師会が 302 通(内本学医療センター大森病院医師分 25 通), 合計 597 通であった。いずれも 7 月 25 日(土)に発送し, 回答期限を 8 月 14 日(金)に設定した。

送付した 597 通の内, 180 通が回収された。回収されたアンケート調査票の内, 有効回答票は, 蒲田医師会分が 76 通・大森医師会分が 81 通(内本学医療センター大森病院医師分が 9 通)であり, 有効回答率は 26.3%であった。

単純な集計結果からは, 医中誌 Web 等のデータベースの個人利用が多い傾向がうかがえた。また, 診療時と専門分野の研究時に用いるメディアに差が生じており, 診療時には図書が最も利用され, 研究時には雑誌論文が最も利用されている事が明らかとなった。1999 年時の調査と比較した場合, 全般的にインターネット利用が増加している。なお発表時には単純集計のより詳しい分析に加え, クロス分析に関する考察も行う予定である。

【今後の展望】

田園調布医師会については許可がおり次第アンケート調査票を配布する作業を行う予定である。また今後, 本研究の延長線として, 「巡回図書館員」を用いた地域の医療に携わる医師に対する情報デリバリーサービスの実施を検討している。

継続教育 1-1

医学図書館員のための論文執筆と学会発表：問題発見から解決へむけて

山崎 茂明

愛知淑徳大学文学部図書館情報学科

新しい状況や問題に出会った時、これまでの体験や経験だけでは解法を得ることが困難になってきている。状況を観察し、記録し、分析と比較を通して、何が問題なのかを明確にすることが、専門的職業人に求められる。リサーチを行い、書き、発表するスキルは、研究者だけに要求されるものではない。

今回の講演では、「図書館員と書くことの意義」を確認し、「リサーチとは」から、「論文テーマの探し方」、「そのための情報収集」、そして「論文の組み立て方や心構え」など、個人的な体験をまじえて、お話ししてみたい。また、情報専門家として、IMRAD(Introduction, Materials and methods, Results, And Discussion)スタイル、構造化抄録の意義、URM (生物医学雑誌への統一投稿規定) の形成、レフェリー・システムなど、基礎的な視点を皆さんと検討しようと思う。

成果は伝えられなければ意味を持たないだけに、職場を越えたより広い世界との交流が欠かせない。会議への参加や発表を通して、様々な気づきを得られ、それは職業人としての喜びになる。

参考資料

- 1) Librarianship:遠くまで歩いていくために. 薬学図書館 1990; 35: 14-20.
- 2) 医学図書館員の専門性をみがくために. 医学図書館 1999; 46: 254-260.
- 3) 文献スクリーニングの価値; ケネディ記念倫理研究所図書館の活動. 薬学図書館 2002; 47: 1-5.
- 4) 科学論文のスタイルと論文のまとめかた. 薬学図書館 1995; 40: 161-166.
- 5) コミュニケーションとしての論文発表. ほすぴたるらいぶらりあん 1996; 21: 39-43.
- 6) 口頭発表とプレゼンテーション. 薬学図書館 1995; 40(3): 277-280.
- 7) 医学図書館員の広場としての機関誌. 専門図書館 1999; 175: 25-31.
- 8) バーゼルでのヨーロッパ科学編集者会議. 医学図書館 1989; 36: 24-29.
- 9) 学術雑誌研究への手引. 医学図書館 1986; 33: 99-110.
- 10) 図書館学関係の雑誌: 外国編. 薬学図書館 1985; 30: 93-104.
- 11) 引用のリンクがひらく新しい研究世界. 情報の科学と技術. 1998; 48: 237-241.
- 12) Learning from Each Other!: 医学情報サービス研究大会 20 周年記念誌. 東京: 第 21 回医学情報サービス研究大会事務局, 2004.

継続教育 1-2

論文はどのような過程を経て外国雑誌に掲載されるのか：論文作成と図書館との関係

原田 信広

藤田学園保健衛生大学医学部医学科生化学教授 図書館長

雑誌「医学図書館」への原稿提出の方法は、「原稿は電子メールに添付して送信するか、原稿を保存した電子メディアを郵送する」となっている。

医学系の外国雑誌に原稿を投稿する時は、まず雑誌の HP を開き、register 画面から個人のアドレスなど必要な項目を入力登録して、ID と PW をメールでもらうことから始めるのが普通である。

ID と PW を貰ったら、もう一度雑誌の HP に戻り、author main menu に入り、cover letter、論文、写真、統計、参考文献などを示された手順に沿って送る。その後、編集者との修正等の何度かのやりとりがあって、ようやく投稿完了ということになる。

今回ご紹介したいのは、論文を作る過程で図書館のツールがどのように使われているのか、ということである。

PubMed、EJ、Journal Citation Reports、Instructions to Authors などが如何に有機的に使われているか、つまり資料集めから実験、投稿から掲載までの段階と図書館が研究者にとって如何に使われているのか、その過程を説明する。

図書館が論文作成時に必要と思われる時は、

今からやる実験が過去にあったかどうか調べる

実験の方法が最新で適切かどうか調べる

実験結果が正しいと思われるかどうか調べる

論文の書き方が雑誌の投稿規程にそっているかどうか調べる

以下は、医学図書館研究会・継続教育コース実行委員から、予めだされた質問をまとめたものである。

- ・論文作成過程において、また研究者として、今後の図書館および図書館員に期待するもの（こと）についての率直な意見。
- ・研究開始から論文発表までの期間
- ・文献の入手について
 - 1 論文作成するのに、研究者は何本論文を読むのか（集めるのか）？
 - その内、引用・参考文献となるのは、何割ぐらいか？
 - 図書館所蔵分でどのくらいカバーできるのか？
 - ILL では？ 他にも入手する手段等があるのか（研究者仲間同士等）？
- ・まとめとして、論文作成時に図書館はどれくらい重要なのか？ほんのちょっとか、かなり重要なのか？

これらの質問に答えながら、研究者から見た図書館の重要度をお答えできれば、と思っている。

また、この機会を通じてライブラリアンとして、利用者の様々なニーズに満足されるような図書館運営がなされているか、再考していただければありがたい。

継続教育 2

文献検索講習 中級編 ～こわくないシソーラス～

田原美奈子

名古屋市立大学総合情報センター川澄分館

山崎むつみ¹⁾

静岡県立静岡がんセンター医学図書館

PubMed などの文献データベース検索は、インターネットからアクセスし、関連する適当な単語を入れて簡単に検索ができてしまうため、ともすると、Google などのサーチエンジンのようにそのまま検索を完了してしまう。

その一方で、文献データベースでは、サーチエンジンの検索と違い、検索対象分野の専門家ではなくても、もっと踏み込んだ検索や的確に絞り込んだ検索ができる。そのテクニックの一つが、「シソーラスに統制された検索語を使うこと」といえる。しかし、シソーラスというものが何であるか、また、どのように調べて、シソーラスによる検索語を決めたらよいかを具体的に紹介しているものは少ない。このため、大切なものと知りつつも、シソーラスを使って検索をすることに今ひとつ、自信がもてないことが多い。

そこで、今回の継続教育コース 2 では、文献検索中級編～こわくないシソーラス～として PubMed と医中誌 Web のシソーラスの基本について講義と実習を通じて紹介する。

PubMed 編では、シソーラスを使った検索の必要性、注意点など具体例を使って解説する。また、画面の操作の実習も行うため、シソーラスを使った基本的検索を実際にマスターすることができる。

時間の制約上、PubMed のシソーラスについては、基本的な部分の紹介と実習になってしまうため、今回の講義では言及しきれない PubMed のシソーラスの仕組みや使い方については、記載されている情報源を講義中に紹介する。PubMed のシソーラスは毎年更新されていることでもあるので、今後は、それらを見ながら自己学習していくことも勧めたい。

医中誌 Web 編では受講者が医中誌 Web のシソーラスとは何かを理解し、シソーラスを使用して医中誌 Web の検索ができるようになることを目的として、医中誌 Web のシソーラスの概要、シソーラスを使った検索方法や注意点等について解説する。

医中誌 Web は検索語が日本語となる分、PubMed に比べ、検索者にとって思いつくキーワードや単語の言い換えが幅広くなるため、シソーラスを使った検索の利点をより感じるができるだろう。講義と実習を通じ、シソーラスを使った検索でも医中誌 Web ではどう検索するか、PubMed との違いを実感しつつ、よりシソーラスについての理解を深めていただきたい。

シソーラスを使用して検索することにより、適合率の高い論文を検索できるが、検索より漏れる論文も出てくるため、より網羅的な検索を必要とする場合は状況によって検索方法を使い分ける必要がある。

今回の講義と実習によって、シソーラスが少しでも身近な存在になることを願っている。

¹⁾ヘルスサイエンス情報専門員 上級